

PHAYAOLレポート 2008-08 (～6人のメンバー～)

スタディツアー参加者からの報告 (日刊新周南 連載記事から)

藤屋侃二さん(68) 下松市幸ヶ丘 元KRY取締役ラジオ局長

南

2008年(平成20年)11月20日(木)

4



少数民族モンを訪ねる

～6人のメンバー

前回、同行の女子大生が蒙の名前をもらった話を書いたら、ある人から「どうして女子大生と一緒に旅をしたの?」と聞かれた。

たメンバーは六人。一人は主催のシャンティ山口事務局長の佐伯さんだから実質は五人。うち二人は山口県立大学国際文化学部の男子と女子の学生である。国際文化学部は言語コース(英語、韓国語、中国語)と国際文化コ



自身が作ったエコ循環トイレを掃除する佐伯さん

関心を寄せ

が、とにかく欧米に

理由はよくわからな

マンで、一九九三年に

シャンティ山口が設立

されて以来の会員だ。

コースの二つがあり、二人は国際文化コースで、地域実習などもするらしい。

実施責任者の佐伯さんは六十三歳。元県庁

マンで、一九九三年にシャンティ山口が設立

されて以来の会員だ。今回の訪問で四十五

今年、佐伯さんの活

動を見せてもらいながら、これぞ自分の望む生き方に思えた。

る学生が多い中、この二人は東南アジアに関心を持ったらしく好感が持てる。

残る三人の大人は中国、タイ、パレスチナのNGO関係者で、五人がモン族を訪ねてのスタディツアーに参加したのだ。

輝いて生きるために」という演題であった。これは自分がそのように生きたいという願望のようなものである。

今年、佐伯さんの活動では、定年退職後は一年のほぼ半分はタイに滞在しているというから、私のような中途半端なNGO活動ではない。

ただではない。少しでも豊かに自立して生活できるように複合農業(一種類だけでなく種類の作物を作って生活を安定させる)をアドバイスし、また蒙の村にエコ循環トイレを設けて衛生面でも活動しておられるのには頭が下がった。(元山口放送取締役ラジオ局長)



大雨被害を受けた蒙の人たち



帰国報告会の6人のメンバー

—シャンティ山口教育支援募金にご協力をお願いします。—

2008.11.20 saeki